



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

2. 現地圃場におけるモモ台木「ひだ国府紅しだれ」の評価

[要約]

「ひだ国府紅しだれ」台樹は、慣行台樹（「おはつもも」台及び「筑波5号」台）に比べて、春先の凍害の発生が少ない。現地圃場の8割以上の園主は、樹当たり収量はやや少ないが、果実外観・品質が同等以上のため、今後も本台木を使いたいと評価している。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「ひだ国府紅しだれ」台樹は、慣行台樹と比べて樹勢がやや弱いものの、春先の凍害の抑制効果が期待されるが、本県での実証例はない。そこで、凍害が発生しやすいと推測される地力の高い圃場及び過去に発生が確認されている圃場（県内24圃場）において凍害発生状況を確認する。さらに、生産者を対象に、樹勢や果実品質に関するアンケート調査を実施し、本台木の実用性評価に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 春先の凍害が発生しやすいと考えられる圃場において、慣行台樹（「おはつもも」台及び「筑波5号」台）では、約25%に凍害が確認され、そのうち約16%が枯死したが、「ひだ国府紅しだれ」台樹では枯死が全く発生しなかったため、凍害の抑制効果が高い（図1）。
2. 「ひだ国府紅しだれ」台樹は、慣行台樹に比べて、樹勢がやや弱く、樹当たり収量はやや少ないが、果実の外観や食味は同等かそれ以上との評価が多い（図2）。
3. 「ひだ国府紅しだれ」台樹は、「枯死がみられず安心して栽培できる」、「樹が大きくなり過ぎなくて管理しやすい」、「株元まで果実品質が安定している」、「強勢になりやすい水田転換園に適する」などの意見があり、多くの生産者は、今後も「ひだ国府紅しだれ」台を主に用いるか、園地の状況（被害の多発や高地力）によって選択したいと考えている（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本台木の穂木品種としては、主に「清水白桃」、「白皇」などが利用されていた。
2. 本台木については、岐阜県と利用許諾契約を結んだ苗木業者等から購入できる。
3. 凍害の発生しやすい若木時（2～5年生）の結果である。
4. 本台木を用いた場合でも、春先に凍害が発生する可能性はある。
5. 樹勢、収量及び果実品質などは、圃場条件、栽培管理方法などによって傾向が異なる可能性がある。
6. 本台木を用いた場合、慣行台樹と比べて樹冠占有面積が7割程度になる傾向がある。



[具体的データ]

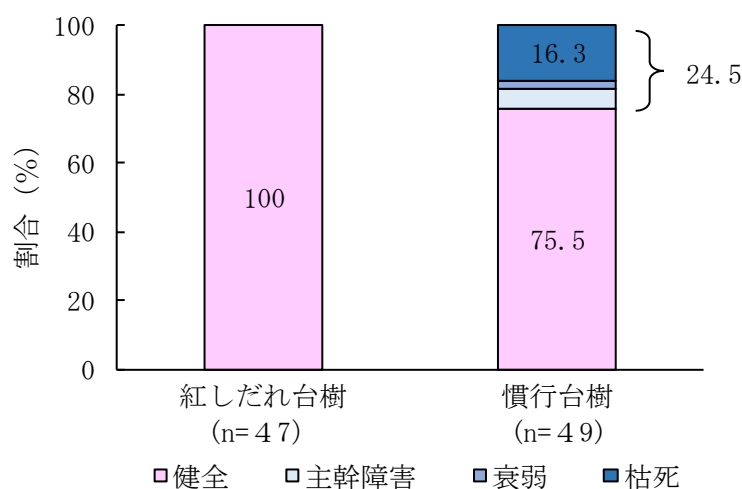


図1 台木の違いが現地圃場における凍害発生率に及ぼす影響^z（2016～2019年累計）

^z（調査園地：岡山市11圃場、倉敷市2圃場、赤磐市6圃場、井原市5圃場）

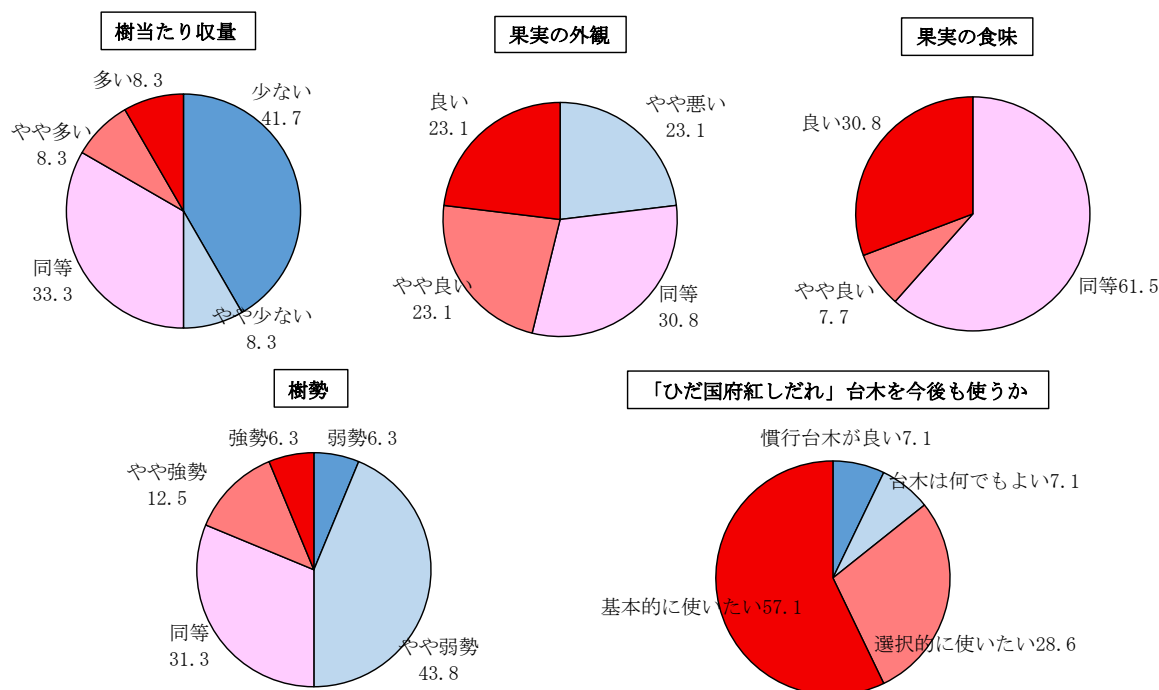


図2 「ひだ国府紅しだれ」台木の現地試験を実施した生産者におけるアンケート結果

[その他]

研究課題名：モモの低樹高・軽労化栽培技術の確立

予算区分・研究期間：県単・平29～令和元年度

研究担当者：樋野友之、荒木有朋、鶴木悠治郎、河村美菜子、佐々木郁哉、藤井雄一郎

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[平28\(17-18\)](#)、[平28\(19-20\)](#)

2) 荒木ら（2018）園学研17別2：381